



教室に花を！学校に潤いを！～南小花いっぱい運動～

学校だよりNo.12でお知らせとお願いをしたところでしたが、時期悪く、猛暑続きで花がほとんどない頃でした。そんな厳しい中に、花や花瓶を届けてくださった保護者や地域の方々に、感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございました。

さて、この南小にも、朝夕は涼しい風が吹き、やっと秋を感じられるようになってきました。道端に彼岸花が咲いているのを見つけ、秋の花々が彩りを見せる時期が来たかとわくわくしております。

そこで、再度のお願いです。南小の教室や校舎を花でいっぱいにするために、

**庭先や道ばたに咲いている花を、
子どもたちに持たせてください。学校にお寄せください。**
お待ちしております。



和気香風

「勉強しなさい」の声かけより効果があることは？

私が子どもの頃に親から言われて嫌だった言葉に「はよ（早く）、勉強せんか！」「はよ（早く）風呂入らんか！」などがあります。その言葉への反応として、「うん」という生返事、黙って無視、そして「今、しようと思っとったつに！いちいち言わんでもわかっとる！」という反発でした。

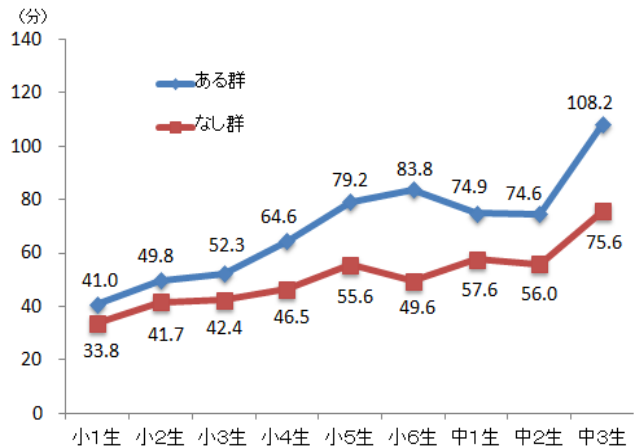
ところが、子どもの頃に反発していた自分が親になってみると、同じように我が子に「はよ（早く）、勉強せんか！」「はよ（早く）風呂入らんか！」と言っていました。振り返ると、いま子どもがどんな学習をしているのか、国語や算数等で何を習っているのか全くわかっておらず、まして我が子が何を理解できておらず、どこでつまづいているのかなんて把握もしていないで、ただただその言葉を浴びせかけるだけだったように思います。『これじゃ、いかな』と自省するのをつかの間で、『仕事、仕事で忙しい。そんな余裕はない』という思いも正直ありました。丁寧な関わりでなく、単なる一言で済ませようとしていた面がありました。お恥ずかしい限りです。

右のグラフは、親子で将来や進路について話をする 것과子どもの学習時間の関係を表したものです。（ベネッセコーポレーションより引用）

このグラフを見ると、親子で将来や進路について話をするほうが、子どもの学習時間は長いという明らかな結果が出ています。親と将来や進路について話をしている子どものほうが、勉強時間が長いのはどの学年も共通しています。特に小4以降はその差が歴然として、小4～小5では20分前後、小6では30分以上の差になっています。中学生でも同様に、中1～中2は20分弱、中3では30分以上の差と、受験の前にさらに差がつく傾向が見てとれます。

「勉強しなさい」の声かけより、「親子で将来や進路について話をする」ことのほうが、子どもの学習意欲を高める効果があるのかもしれませんが。それを裏付けるかのように、「将来の目標イメージが明確な子どもは、自律的に勉強している」というデータもあります。自分の将来の目標イメージを描く手助けとして「子どもと将来や進路について話をする」ことは、どの学年の子どもにとっても学習意欲を高めるために大切な働きかけであり、中学生になるまで待つ必要はないと言えます。

「勉強しなさい」の声かけが必要なときも、もちろんありますが、それだけでなく、今から将来について親子で楽しく話し合うことを、積極的に始めてみてはいかがでしょうか。



一人一人の「一生懸命」が輝いていた研究授業

私たちは、授業力や指導力の向上のために、毎週水曜日の午後に研修を重ねているところです。その一環で、25日（水）に、3年生（大津教諭）で研究授業（算数科「あまりのあるわり算」）を行いました。

そこで見せてくれた子どもたちの姿に感動しました。出された課題について一生懸命に考える目や表情がキラキラとしていました。図をノートに書きながら思考する姿、自分の考えを文章で表現していく姿、それを言葉で表現していく姿、考えを交流させていくことで、自分とは違う考えに触れ、「あっ、そうか！」と考えを広げたり、「そうだよね！」と自分の考えを強化させたりする姿なども素敵でした。

とにかく、その45分間、3年生の教室の中では、一人一人の「一生懸命」がキラキラと輝き続けていました。その時の様子は別添のプリントをご覧ください。